

ウイングチェックバルブ®

ウイングチェックバルブご使用の皆様へ〈ウイングチェックバルブ取扱い上の注意事項〉



下記の注意事項をお守りください。これらの注意を怠ると、事故や損傷が生ずるおそれがあります。

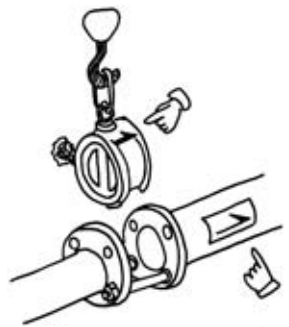
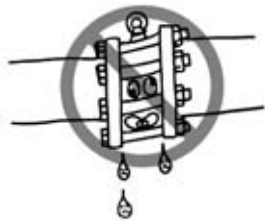
〈バルブ取扱い上の一般的な注意事項〉は、149～156頁をご覧ください。

1. 選定・購入時

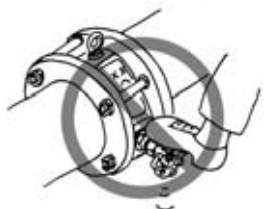
- (1) それぞれのバルブには、設計上の使用範囲（製品仕様）がありますので、それらを確認し、腐食、キャビテーション、ハンマリング、かじりつきなどの事故防止のため、使用条件に合ったバルブを選定してください。
〈スプリングの選定については“選定上のご注意”（67頁）をご参照ください。〉
- (2) EPDMシートは、油には使用できません。
- (3) ウイングチェックバルブを給湯ライン並びに高塩素濃度の給水ライン（例えば、病院、ホテル、高架水槽、プールなどの配管設備）に、ご使用の場合は、ふっ素ゴムシートをご指定ください。
- (4) レヂューサーで急拡大し乱流域にウイングチェックバルブを設置する場合には、「脈動対策品」をご使用ください。
- (5) 流体：可燃性ガス及び毒性ガスには、ご使用できません

2. 配管取付け時

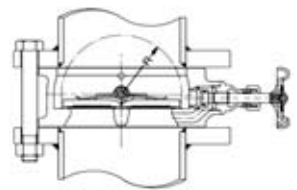
- (1) バルブを取付けたままの管フランジの溶接は避けてください。
溶接熱やスパッタでバルブ性能の劣化の危険性があります。
- (2) 心出しが不十分なままバルブを取付け、ボルトで配管を矯正しますと、外漏れやバルブへの異常な応力の発生で不具合が起きる危険性があります。
- (3) ウエハー型ウイングチェックバルブを配管する際に配管用ゴムガスケットをご使用になりますと、口径内にはみ出し弁体と干渉する恐れがありますので使用しないでください。
ノンアスベストジョイントシートガスケットを推奨いたします。



- (4) 流れ方向の制限があるウイングチェックは、ボデーに表示してある矢印と流体の流れ方向が一致するようにしてください。
- (5) 配管時バイパスバルブにフックを掛けたり、ハンドルを足場にして作業をしないでください。
バルブを吊る場合は、必ず吊りボルト（200φ以上）を使用してください。（吊りボルトは弁箱のプレートの上に入っています）

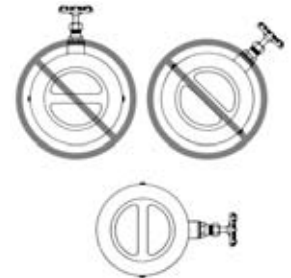


- (6) プレートは半径Rの範囲内を運動します。このため管の先端やガスケットがプレートと接触しないよう配管してください。同様に、あらゆる機器類と直結する場合は、プレートが十分に作動するかどうかを確かめてください。なお、ウェハータイプのバタフライバルブとは直結できません。



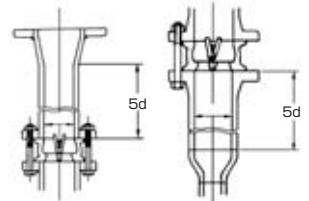
プレートの作動範囲

- (7) 水平配管の場合、流体圧が2枚のプレートに均等にかかり、プレートの自重を含めてバランスのとれた作動ができるよう配管してください。配管時の目安としては、バイパスバルブが管軸に対して水平（真横位置）になるよう接続すれば正しい取付け姿勢となります。

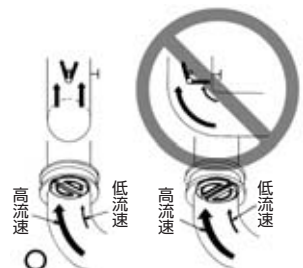


バルブの正しい取付け姿勢

- (8) ウイングチェックのすぐ上流側（一次側）や下流側（二次側）が、レヂューサーにより急激に拡大されたり縮小されている場合には、渦流や乱流が発生し易く、不具合が起きやすいので、バルブ呼び径の5倍以上の距離をおいて設置してください。
5倍以上の距離が確保できない場合、拡大の程度、管内平均流速などの使用条件により、バルブの耐久性が著しく損なわれることがありますので別途ご相談ください。



- (9) エルボなどの曲りの近くに配管する場合は、プレートの向きにご注意ください。曲りの近くは流速変化がおり、プレートの開作動においてバランスを崩す原因となりますので、曲り部よりできるだけ離すと同時に、曲り部内側の低流速帯と外側の高流速帯が2枚のプレートにそれぞれ均一にかかるよう取付けてください。



3. 運転時

バイパスバルブ内蔵型の場合はバイパスバルブが全閉状態になっているか確認してください。

